

Administration Department

管理部





病院にとっての消費税とは

総務課

職員

課長 萩原 学

主任 羽生田 晃

職員 正職員 1名、嘱託 1名

総務課の仕事は多岐に亘ります。大量の郵便物を仕分けし、落とし物の対応や、電話窓口の運営、土地の管理に駐車場の管理、スタッフ派遣に係る契約や各種保険の加入など、縁の下の力持ち的な業務から、5月1日に執り行った病院創立80周年記念セレモニーの段取りなど少し大掛かりなイベントまで様々です。その中でも総務課は病院の金庫番でもありますので、ここではお金に関する話として、病院にとっての消費税についてお伝えできればと思います。

皆さん、患者さんからいただく診察代（診療報酬）に消費税は含まれていますでしょうか。答えは、含まれていません。では、病院が物を買う場合、消費税は払っていないのでしょうか・・・そんなことはありません。

少し極端ですが、例えば薬を110円（課税）で仕入れても、患者さんからいただく薬代は100円（非課税）です。この100円は国が決めていて、勝手に110円にするわけにはいきません。この10円の差を患者さんからいただくわけにはいかないのです。

見方を変えますと、当院は昨年、がんを治療する器械（リニアック）を6億円で更新しました。経営的に大変厳しい判断でしたが、この消費税は6千万円です。家を2件建てられるでしょうか。

そして、4.2億円・・・この数値は令和6年度の当院の消費税の金額です。しかも10年前から1.1億円増加しています。

ここ数年の医療業界は、燃料費の高騰により資材が高騰し、病院を建て替えようにも、入札が不調に終わるということが散見されています。また、働き方改革で委託費が高騰したりと、ここでも患者様には転嫁できない消費税が登場します。

この消費税4.2億円が、7割以上が赤字と言われている医療業界の大変厳しい状況の要因の一つであることが伝わるかと思います。

国は診察代に消費税が含まれているというわけですが、とても含まれているとは思えません。十分な診療報酬の設定をされていないと言われています。このため、全国的に110%で診療報酬をいただけるようにしようという動きもあります。

消費税は1989年に導入されました。今年で36年目です。当院が100周年を迎えた時に消費税は何パーセントになっているでしょうか。20年後にまたこの記念誌を開いてみたいと思います





人事課

職員

課長 山田 善康（兼務）
職員 5名

人事課ってどんなことをしているの？

私たちは、職員が安心して気持ちよく働けるよう、さまざまな面からサポートしており縁の下の力持ちとして、日々の業務に集中できる環境を整えたり、キャリアアップを応援しています。

業務内容

■ 新しい仲間を増やす、採用・配置

医師や看護師、コメディカルなど、病院にとって不可欠な人材を探し、採用する仕事です。
・求人情報の掲載や説明会の開催：病院の魅力を伝え、新しい仲間との出会いを作ります。
・内定者のフォローアップ：入職前からスムーズにスタートできるよう、必要な情報を提供します。

■ 成長を応援する「人材育成・研修」

職員さんの成長をサポートするため、さまざまな研修への支援を行っています。
・OJT の推進：日々の業務の中で実践的なスキルを磨けるようサポートします。
・研修の企画・運営：新入職員研修や管理職研修など、職員さんのスキルアップを後押しします。
・資格取得支援：専門資格の取得を応援し、費用補助や情報提供を行います。

安心して働くための「労務管理」

職員皆さんの日々の働きを支える、大切な業務です。

- ・給与・賞与・退職金：職員皆さんのお給料を間違いなく計算し、支給しています。もちろん、賞与や退職金に関する業務も担当しています。
- ・社会保険・労働保険の手続き：健康保険、年金、雇用保険などの手続きをスムーズに行います。
- ・勤怠管理：職員皆さんの勤務時間、休日、休暇を正確に管理します。
- ・福利厚生：健康診断や財形貯蓄など、より良い暮らしをサポートする制度を企画・運営します。
- ・安全衛生管理：ストレスチェックなど、職員皆さん的心と体の健康を守るための取り組みを進めています。

こんなとき、人事課を頼ってください！

給料や手当について

職員皆さんの頑張りに応えるため、給与規程に基づき、各種手当の申請手続きや管理を行っています。



・通勤手当

・扶養手当

・住宅手当

・時間外手当（残業手当）

など、間違いなく計算し、職員へ支給されるよう管理しています。

保険証の手続き

医療を受けるために欠かせない健康保険証。こんなときはお声がけください。

・新規加入手続き

・扶養家族の追加・削除手続き

・氏名や住所の変更

・退職時の手続き

・傷病手当金・出産手当金の手続き補助

困ったときの「相談窓口」

人事課は、職員皆さんの「安心」を支える場所です。

・ハラスメント対策：相談窓口を設置し、啓発活動を行っています。

・職員からの相談対応：人間関係やキャリア、健康など、どんな悩みでも大丈夫です。

「こんなこと、人事課に相談してもいいのかな？」

そう迷ったら、まずは一度、私たちに声をかけてみてください。きっと、職員皆さんの力になれるはずです。

抱負

私たちは、職員皆さんのが生き生きと働き続けられるよう、今後もきめ細やかなサポートを行っていきます。

より良い病院を一緒に築くために、これからもどうぞよろしくお願いします！



秘書課

職員

課長 山田 善康（兼務）

主任 岩下 実枝

職員 10名

秘書課ってどんなことをしているの？

秘書課は、80年間、医師の方々が日々の業務に専念し、最大限のパフォーマンスを発揮できるよう多角的にサポートしてきました。また患者さんへの治療に集中できるように環境を整える、縁の下の力持ちであり続けてきました。多岐にわたる業務を通じて、病院全体の円滑な運営を支え質の高い地域医療の提供に貢献し続けてきました。

業務内容

■ 医師からの相談役

日々の業務で生じる様々な疑問や困りごとに対し、医師から直接相談を受け、解決に向けてサポートしています。時には他部署との連携を取りながら、医師が安心して業務に専念できるようお手伝いしています。

■ 各診療科の書類作成支援

診断書や紹介状、研究に関する資料など、各診療科で必要となる多種多様な書類作成をサポートしています。専門知識が求められる場面もありますが、正確かつ迅速な作成支援を通じて、診療の効率化に貢献しています。

■ 会議のサポート

院内で行われる様々な会議の準備から運営までをサポートします。会場設営を中心に、議事録作成や資料作成など、会議がスムーズに進行するための重要な役割を担っています。

■ 医師の働きやすい環境整備

医師が快適に業務に取り組めるよう、様々な面から環境を整備します。デスク周りの環境改善から、必要な備品の調達まで、細やかな配慮を大切にしています。

■ 食事面のサポート

忙しい業務の合間に、医師が栄養バランスの取れた食事を摂れるよう、食事に関するサポートを栄養科と連携をはかりながら行っています。

■ 医師住宅や寮の管理・清掃

快適な住環境を提供できるよう、医師寮の管理・清掃を徹底しています。

■ 研修医の募集とサポート

将来を担う研修医が当院で充実した研修を送れるよう、募集から採用、そして研修中の様々なサポートまでを一貫して行っています。また安心して研修に取り組める環境を整備し、研修医の成長をバックアップしながら、優秀な人材の確保に貢献しています。

■ 医学生の病院見学対応

将来の医療を担う医学生の病院見学を受け入れ、病院の魅力を伝えるとともに、医療への理解や勤務医との親睦を深める機会を提供しています。

■ 研修医の募集とサポート

これからも医局の環境整備、医師へのサポート業務が中心になりますが、みなさんとともに地域医療を支え続けて参りたいと思っています。





外来係



入院係

医事課

職員

課長 矢島 好弘
主任 瀧澤 真樹

はじめに

医事課は、病院の“最初”と“最後”を担う部門です。受付では患者さんを最初にお迎えし、診療の終わりには会計業務を通じて、診療内容に応じた費用を正しく処理・請求します。こうした業務を通じて、医療サービスの提供を円滑に支え、病院経営にも貢献しています。

職場目標

「適切な保険請求」と「患者サービスの向上」

私たち医事課は、患者さんに安心して医療を受けていただける環境づくりを支えるため、日々の業務に真摯に取り組んでいます。特に「適切な保険請求」を徹底することは、医療機関の経営を支える重要な柱であり、法令遵守と正確な処理を通じて信頼性の高い医療提供体制の維持に貢献しています。

また、「患者サービスの向上」にも力を入れており、窓口対応や案内業務においては、患者さん一人ひとりの不安や疑問に寄り添い、丁寧で温かみのある対応を心がけています。これらの目標を実現するため、医事課一同は日々研鑽を重ね、チームワークを大切にしながら、より良い医療環境の構築に努めています。

体制と業務範囲

現在、正職員・臨時職員・派遣職員を含めた総勢 18 名で構成されており、窓口・ブロック業務についてはニチイ学館およびサマンサジャパンに委託し（一部職員）、連携体制のもと日々の業務にあたっています。

私たちの業務は多岐にわたります。受付業務から医療費の計算、診療報酬請求等幅広く対応しています。診療報酬請求業務では、制度改定や診療内容の変化に迅速かつ正確に対応することが求められ、常に最新の知識と高い専門性が必要です。

患者対応と制度支援

保険制度は複雑で、患者さんにとっても分かりづらい部分が多いため、窓口対応では丁寧な説明と柔軟な対応を心がけています。患者さんが安心して医療を受けられるよう、制度面から支えるのも私たちの使命です。

病院経営との関わり

医事課は病院全体の収益に直結する部門でもあります。診療報酬の適正な請求は、病院経営の安定に欠かせません。そのため、各診療科との連携を密にし、記録の確認や修正依頼などを通じて、正確なデータの整備に努めています。

さらに、診療報酬請求に直結する施設基準の管理も、医事課の重要な業務の一つです。近年では、電子カルテやレセプトシステムの高度化に伴い、IT スキルも求められるようになり、業務の質と効率の両立が課題となっています。

特色と強み

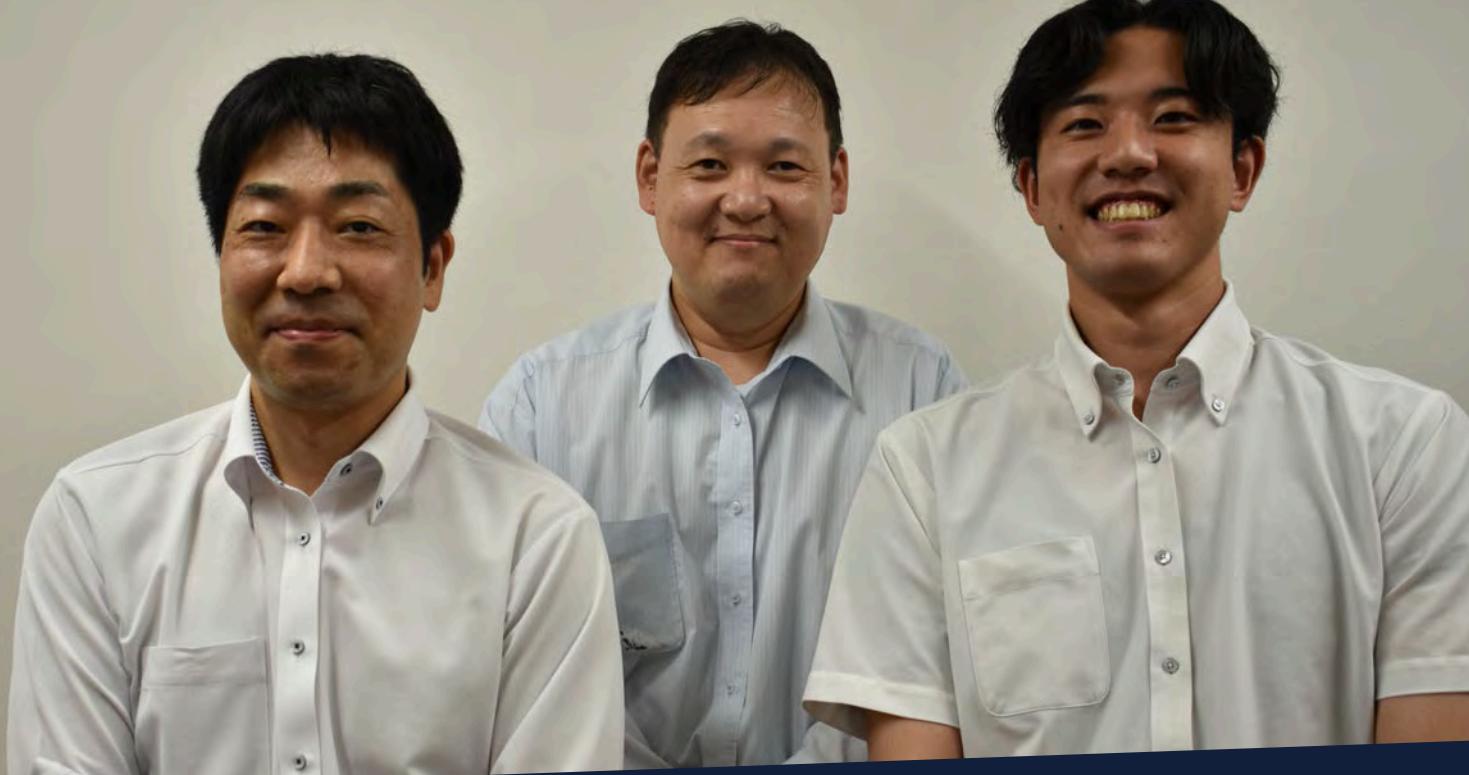
医事課の強みは、チームワークと柔軟な対応力です。委託スタッフを含めた全員が『患者さんのために』という共通の意識を持ち、日々の業務に取り組んでいます。忙しい中でも笑顔を忘れず、互いに支え合いながら、より良いサービスの提供を目指しています。

未来への抱負

80 周年という節目を迎え、私たち医事課もまた、これまでの歩みを振り返りながら、次の 100 周年に向けて新たな一歩を踏み出します。

今後は、DX（デジタルトランスフォーメーション）を見据えた業務改善や、患者サービスのさらなる向上に取り組み、地域に信頼される病院づくりに貢献していきたいと考えています。

『見えないところで病院を支える』——それが医事課の誇りです。これからも、患者さんと病院をつなぐ架け橋として、日々の業務に真摯に向き合ってまいります。



経営管理課

職員

課長 小林則政（兼務）

主任 中澤豊

職員 3名

特色

大変忙しい職場ですが、少人数故、報連相を重視しており風通しの良い職場です。



業務内容

北信総合病院 経営管理課は、病院経営の中核を担う重要な部門として、病院全体の運営とサービスの質の向上を支えています。当院は長野県北信医療圏の中核的な医療機関として、高度かつ安全な医療の提供に努めています。その中で経営管理課は、医療現場がその機能を最大限に発揮できるよう、組織の円滑な運営、経営資源の最適化、財務管理、業務効率化の推進など、多岐にわたる役割を果たしています。

主な業務内容としては、予算・決算の管理、経営分析、施設整備の計画と調整、人材配置の支援、診療実績データの管理・活用などがあります。近年では、医療制度の変化や地域医療構想に対応するため、戦略的な病院経営が求められる中、データに基づいた意思決定支援にも注力しています。電子カルテ情報や医事会計システム、また厚生労働省の審議会資料等、院内外のあらゆるデータの分析・活用などを行い、部門横断的な経営支援を行っています。



診療情報管理課

職員

課長 小林則政（兼務）

課長代理 長島さゆり

主任 米澤千恵美



特色

大変忙しい職場ですが、各々プロ意識を持って業務にあたっています。

業務内容

診療情報管理課は、病院運営の根幹を支える重要な部門として、診療記録の適正な管理と活用を通じて、質の高い医療提供と患者サービスの向上に貢献しています。当課は、医療情報の正確性・安全性・機密性を確保しつつ、診療記録の整備、保管、分析、提供など多岐にわたる業務を担っています。

主な業務としては、まず診療録（カルテ）の点検・管理が挙げられます。医師や看護師が記録した診療情報が法的・医療的に適切であるかを確認し、不備があれば関係部署と連携して修正を促します。また、診療録の電子化が進む中で、電子カルテシステムの運用支援やデータの整合性チェックも重要な役割となっています。

さらに、診療情報管理課はDPC（診断群分類包括評価）制度に基づくデータ提出や、各種統計資料の作成・分析も担当しています。これにより、病院経営の意思決定や医療の質向上に資する情報を提供しています。加えて、院内がん登録、NCD入力などの報告業務も正確かつ迅速に行ってています。



個人情報保護の観点から、患者情報の取り扱いに細心の注意を払い、情報漏洩防止に努めています。また、診療情報の開示請求への対応など、患者と医療機関をつなぐ情報の橋渡し役も担っています。診療情報管理課には、診療情報管理士をはじめとする専門知識を有するスタッフが在籍しており、日々の業務において高い専門性と倫理観をもって対応しています。医療の高度化・複雑化が進む中で、診療情報の正確な管理と活用はますます重要性を増しており、当課はその責任を自覚し、継続的な業務改善と人材育成に努めています。

北信総合病院 診療情報管理課は、これからも「信頼される医療情報の管理者」として、地域医療の発展と患者中心の医療の実現に貢献してまいります。





業務課

業務課入口

職員

課長 中島 伊才義（兼務）

主任 野村 速人

職員 正職員 4名、無期転換パート職員 1名、派遣・委託職員約 50名

業務内容

私たちの仕事は、医療材料・医薬品・検査試薬・事務用品・日用品など、病院全体で使用されるあらゆる物品の発注・在庫管理・請求処理まで幅広く関わります。特に、SPD（院内物流管理）システムの運用により、適正な物品管理を支えることで、各診療部門の円滑な医療提供を裏から支えています。

また、医療機器の購入や保守管理、在宅酸素の物品管理、職員ユニフォーム・リネン・カーテン等の管理にも対応し、固定資産の管理や施設整備計画の立案・実施も担います。加えて、給食材料の棚卸や、院内レストラン・カフェ・売店との調整など、院内の“物”に関するほとんどすべてを守備範囲としております。

「鉛筆 1 本から MRI まで」——まさにこの言葉が業務課の業務範囲を象徴しています。



業務課入口

特色

業務課の特色は、“縁の下の力持ち”として病院全体を支える責任感と、幅広い知識と対応力が求められるところにあります。物品ひとつが滞ることで診療に影響を与えることもあるため、スピードと正確性が求められ、日々緊張感を持ちながらも、誇りをもって仕事に取り組んでいます。チームワークも良く、派遣・委託職員も含め、連携がしっかりと取れていることが、課全体の強みです。



SPD 物品払い出し (ワキューセイロア)



リネン作業 (長野リネンサプライ)



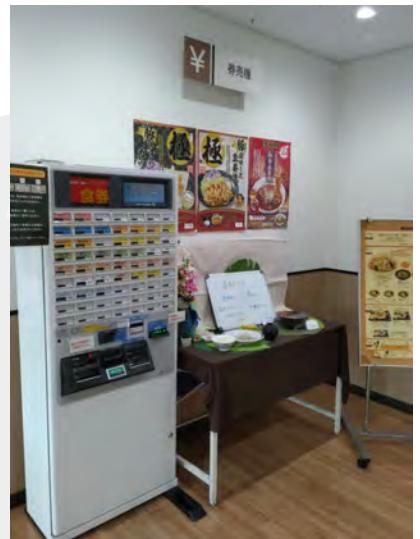
洗濯・補修作業 (太陽セランド)



売店 (セブンイレブン、光洋)



カフェ・ベーカリー (光洋)



職員レストラン入り口 (光洋)



職員レストラン (光洋)

“病院の屋台骨を支える部署”として、私たちは日々、小さな改善を積み重ね、より良い病院運営の一助となれるよう努めてまいります。

80年の歴史を支えてきた病院の一員として、業務課もまた、見えないところで多くの支援をしてまいりました。これからのはじめの100周年に向けては、さらに効率的かつ環境に配慮した物流体制の整備や、DX（デジタルトランスフォーメーション）を見据えた業務の見直しを進めていきたいと考えています。



システム課

職員

課長 中島 伊才義（兼務）

主任 清水 浩一

業務内容

電子カルテや各種システム機器の日常保守から、システムトラブル対応、職員への操作オリエンテーション、各部門との連携による業務支援、電子カルテの予約枠の変更や職員の登録、Q&A 対応や端末障害への即時対応。加えて、医事会計システムや放射線レポートシステム、DWH、PACS、看護勤務割、透析管理、地域医療連携システム等、30 以上の部門システムの保守管理等と多岐にわたっており、病院全体の IT 基盤を支える重要な役割を担っています。

私たちの特色は、3 名という少数精銳でありながら、幅広い専門領域をカバーし、迅速かつ丁寧な対応を徹底している点です。また、各部署との密なコミュニケーションとチームワークによって、システムトラブル時にもスムーズな連携を図ることができます。



抱負

情報システムは医療現場の「縁の下の力持ち」であり、診療の質・業務効率・患者サービスの向上に直結します。私たちシステム課は、80年の歴史を礎に、次なる100周年に向けて「安全で快適なIT環境の提供」を目標に掲げ、不斷の改善と最新技術への対応を進めてまいります。

今後も利用者目線でのシステム運用を心がけ、障害の未然防止、操作性の向上、そして病院全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進にも貢献していく所存です。限られた人數の中でも、チームワークと創意工夫を武器に、未来を支えるITの架け橋として歩み続けます。





DX 推進室

職員

室長 和田 稔

業務内容

北信総合病院は今年、創立 80 周年という節目を迎えました。この長い歴史の中で培われてきた地域医療への信頼と実績を礎に、私たちは次なる時代への一歩として、2025 年春「DX 推進室」を立ち上げました。

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、単なる業務の IT 化にとどまらず、デジタル技術を活用して業務やサービスのあり方そのものを見直し、より良い医療環境を実現する取り組みです。少子高齢化、人手不足、医療需要の多様化といった課題に直面する中、医療現場にも革新的な変化が求められています。

DX 推進室では、「医療の質の向上」「職員の負担軽減」「地域とのつながり強化」の 3 つを柱に活動を展開していきます。例えば、AI による診療支援や電子カルテの高度活用、院内業務の自動化など、テクノロジーを活かして“人が人らしく働ける環境”をつくることを目指しています。また、デジタル技術を用いて、患者さんや地域住民との新しいコミュニケーションの形も模索しています。

これまで院内の情報基盤を支えてきたシステム課とも緊密に連携し、双方の強みを活かしながら、病院全体のデジタル戦略を推進しています。システム課の豊富な経験と知見に支えながら、DX 推進室はより広い視点から“変革”を担う存在として機能させてまいります。

私たちの取り組みはまだ始まったばかりです。現場の声に耳を傾け、職員一人ひとりと対話を重ねながら、「北信病院らしい DX」のかたちを創っていきたいと考えています。これからの 10 年、20 年先を見据え、病院全体の力を高めていけるよう、歩みを進めてまいります。



施設課

職員

課長 田中 勇人
主任 高瀬 真弘
職員数 正職員 6名
臨時職員 1名、パート 1名

業務内容

北信総合病院本院及び他附属施設が安全に運用できるように、維持管理や修繕等を行い、インフラを支えています。



手術室空調フィルター交換作業のようす

○建築物・構築物の維持管理：病院の建物本体（病棟、外来棟、手術室など）だけでなく、駐車場、駐輪場、外構、屋根、外壁、内装などの点検、修繕、清掃、塗装などを行っています。

○空調・給排水・電気設備の維持管理：病院内の空調システム（温度・湿度管理）、給排水設備（清潔な水の供給、汚水の処理）、電気設備（受変電設備、非常用発電機、照明、コンセント等）について、定期的な点検・試運転、フィルター交換、清掃などを行い、患者さんの快適性やスタッフの活動に支障がないように努めています。専門業者との連携も頻繁に行っています。

○昇降機（エレベーター）の維持管理：安全性確保のため専門業者による定期的な保守点検を実施しています。故障時の緊急対応及び業者への連絡を行っています。

○医療ガス設備の維持管理：酸素、亜酸化窒素、医療用空気、吸引などの医療ガスは、定期的な圧力チェック、漏洩検査、容器の残量管理などの日常点検を行っています。また、専門業者との連携を密に取っています。

○通信設備の維持管理：電話回線、ナースコールシステム、院内 PHS の管理も行っています。インターネット回線、LAN などはシステム課をサポートしています。



ボイラー点検



ゴミ庫管理



受変電設備点検



書類破棄作業



備品整備

○廃棄物処理：医療廃棄物（感染性廃棄物、非感染性廃棄物）の適正な分別、収集、保管、処理業者への引き渡しを管理します。

○水質管理：定期的な水質検査を実施します。レジオネラ菌対策など、感染リスクの管理も行います。

○防火管理・防災対策：防災・災害対策課と連携しています。

地震や停電などの災害発生時には、非常用電源の確保、ライフラインの点検、復旧作業の指揮などを担い、病院機能の維持に努めます。

○設備関連消耗品の管理：電球、フィルター、清掃用具など、施設管理に必要な消耗品の在庫管理と発注を行います。

○備品修理・交換手配：院内の家具や備品の破損時には、修理や交換の手配を行います。

○省エネルギー対策：照明の LED 化工事、空調設備の運転設定や時間の管理を行っています。



地域医療連携課

職員

課長 大塚 直美（兼務）

師長 小坂 真理

主任 渡邊 恵理子

職員 職員 9名（看護師正職員2名・パート2名、事務正職員5名）

業務内容

○紹介受診調整、紹介状・返書管理

紹介内容にそった診療科との調整をして診察予約日時を決定し、患者さんへご案内しています。予約日にはスムーズな受付案内ができるよう準備をしています。緊急の紹介依頼にも対応し、迅速な院内調整に努めています。

返書は紹介医療機関との連携に重要であり、郵送・作成管理を行っています。

○地域連携パスの管理

現在、心不全・脳卒中・胃、大腸、肝臓がんなどのパスがあり、地域のかかりつけ医と連携し切れ目のない医療となるよう管理しています。

○地域医療機関への広報

近隣の開業医向けに院内の情報を定期的に発信しています（さくら通信 隔月発行）。

○研修会、協議会等の開催や事務局担当

地域医療連携課では、地域がん診療病院・認知症疾患医療センター・北信州心臓病地域連携包括ケア推進協議会などの事務局を担当し、市民公開講座、研修会、協議会などの運営をしています。またスムーズな医療連携ができるよう地域医療機関との交流会も毎年開催しています。地域の行政機関や多職種の医療・介護従事者の方々と協力し地域貢献ができるよう努めています。

抱負

現在、当院では国・県が推進する地域医療構想により、紹介受診重点医療機関および地域医療支援病院の取得に向け、紹介率・逆紹介率の要件達成、断らない病院を目標に地域医療連携課職員一丸となって進めています。これからの中100周年に向けて、北信医療圏の基幹病院として地域の医療機関と連携を強化し、地域住民に貢献していきたいと思います。



デジタル化が待ち遠しい地域医療連携課





地域ケア科（課）

職員

課長 大塚 直美（兼務）

主任 富田 泰代

職員 3名

業務内容

北信総合病院の介護関連事業所である＜訪問看護ステーションなかの／きたしなのサテライト＞、＜訪問看護ステーションせせらぎ＞、＜訪問リハビリテーション＞、＜居宅介護支援事業所＞、＜中野市地域包括支援センター北信総合病院＞の事務部門を担当。

各事業所スタッフが訪問や利用者への対応業務にできるかぎり専念し業務を円滑に行えるよう、保険請求業務をはじめとした事務的な業務を担いサポートしています。

また、地域医療福祉支援センターの一員として、センター内の必要物品の管理等の雑務を行い、センター所属のスタッフが円滑に業務できるようサポートもしています。

特色

3名という少数ではありますが、それぞれが責任感を持ち、各事業所の運営に関わる介護保険事業の知識習得に努め、情報の共有をして日々の業務に役立てています。

また、日頃から各事業所スタッフとも連携を図ることで、お互いの介護保険事業の運営に係る理解を深めています。

抱負

高齢化社会が深刻化している現代ですが、今後もますます高齢化が進むとされ、介護保険事業の必要性は増すばかり。北信総合病院の介護関連事業もこの地域の未来を担う大きな役割を果たすと考えられます。日々利用者のために業務を行っている事業所スタッフの負担軽減と訪問業務への専念に貢献できるよう事務的サポートを行い、様々な事情を抱えつつもその人らしい人生を最後まで送れる方がひとりでも多くなるよう、事業所スタッフと共に努めて参ります。



デジタル化が待ち遠しい地域ケア科

実務的な部分に関しては、IT や DX の推進で業務の軽減・削減が求められる状況の中、介護関連事業は医療分野に比べてデジタル化が進んでおらず、まだまだ紙ベースでの業務が多く、当事業所の業務もアナログな部分が多いのが現状です。

介護現場の紙による作業を減らし事業所の業務負担の軽減を目的に、厚生労働省が主導のシステム「ケアプランデータ連携システム」が令和 5 年 4 月からスタートし、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所の間で介護サービスに関する一部情報をデータでやり取りすることができるようになりました。当事業所では令和 5 年から導入していますが、まだ導入する他事業所は少なく、現場の負担軽減にはつながっていません。今後、介護分野でも IT や DX の推進でデジタル化が進み、現場の負担軽減が実現し、より多くの方の満足ゆく人生の一助となれるることを期待します。



健康管理部

健康管理部長 山本 力 看護師長 千葉 あかね、主任 清水 由紀子、事務課長 外谷 真之、主任 山本 晴良

職員数

医師：健康管理部長

常勤医師：1人、パート医師：4人

事務職：5人、保健師・看護師：15人

検査技師：2人

委託事務：11人

年間受診者数

人間ドック（日帰り）6,719人

人間ドック（1泊2日）1,472人

集団健康スクリーニング 6,008人

がん検診 13,087人

その他検診 17,435人

健康教育・健康相談 6,262人

業務内容

健康管理部では健康寿命延伸を目指した健康づくり・健康管理活動を実践しています。

生活習慣病発症予防と早期発見・重傷化予防を推進するために日々の業務を行っています。

中でも人間ドックは昭和34年2月に一泊二日人間ドックが始まり、昭和58年にはドック棟が開設され、数度の移転の末、平成28年に現在の新棟へ移転し現在に至っています。現在施設内では、一泊二日人間ドックを始め、日帰り人間ドック、生活習慣病予防健診、特定健診、特定保健指導、予防接種など様々な保健予防活動を行っています。また、巡回出張健診は、昭和40年に木島平村の全村健康管理健診が開始され、現在は集団健康スクリーニングとして、5町村、JA役職員、一般事業所などの健診を実施しています。がん対策としては各種がん検診の実施と精密検査等の受診促進を図るために受診勧奨や精検追跡などを行っています。

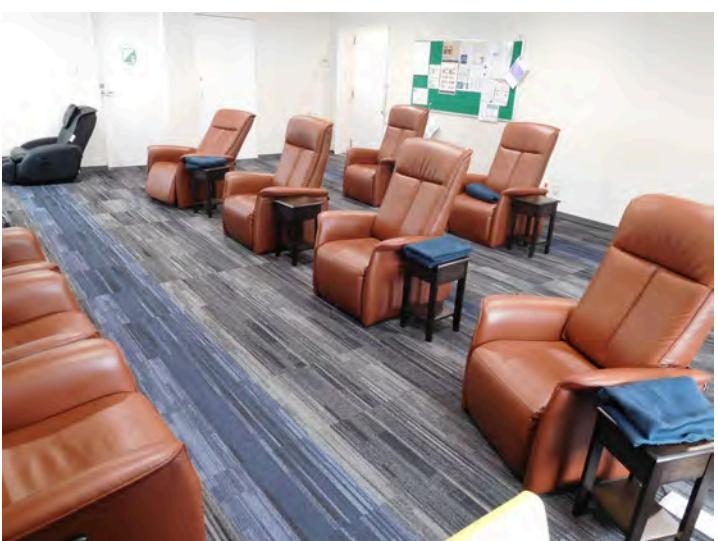
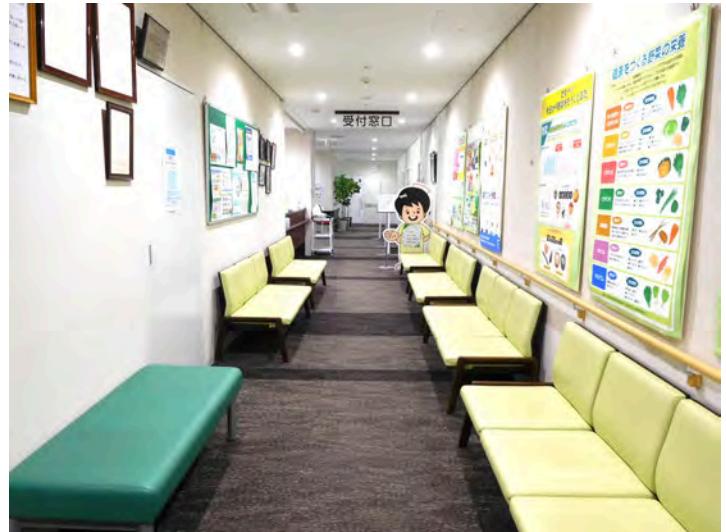
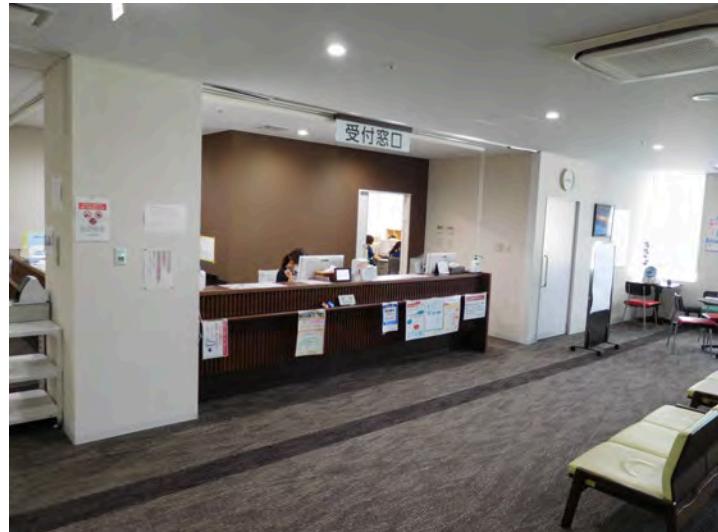
その他、健康教育活動や、啓発活動の実践のため、病院祭や院内健康講座、出張健康講話等を開催し、広く健康教育活動や生活習慣病予防活動に取り組んでいます。



抱負

健康管理部の朝は早いです。人間ドックの受診者様は 7 時 30 分頃からお見えになります。また集団健康スクリーニングは各地域へ出向いての健康診断なので、健診道具を車に積み込んで会場まで出かけます。会場を設営し、健康診断を実施し終了後、会場を片づけて帰院します。早朝から病院を出発することが多くなります。

今後、さらに地域の皆様の健康を支える活動ができるように精進していきます。





医療安全管理室

職員

室長 長田 亮介
課長 丸山 剛正
医療安全管理師長 新井 かおり

紹介

患者さんに安全な医療を提供するため、北信総合病院では 2000 年から各職場長がリスクマネジャーとしてその任を担い、それ以降、2002 年にリスクマネジャー専任が選出、2006 年 4 月から、医療安全管理者専従 1 名、感染管理者専従 1 名、事務員 1 名で医療安全管理室が設置されました。

その後、2023 年に感染制御室が設置されたため、現在は医療安全管理室室長（医療安全管理者 専任医師）1 名、医療安全管理室師長（医療安全管理者 専従看護師）1 名、専従事務 1 名で構成されています。



毎年、医療安全週間に合わせポケットティッシュを配布しています。

抱負

安心で安全な医療の提供はすべての人々の願いです。しかし、残念ながら病院において“絶対安全”というものはありません。安全とは、リスクを最小限にして受け入れられる状態におさえることを意味します。

交通安全を例に考えてみましょう。家から一歩出た瞬間から交通事故のリスクはあります。社会では事故に遭わないよう多様な工夫をします。交通ルールの厳守・車道と歩道の区別・ガードレールの設置・冬用タイヤの装着などリスク低減に向けた対策は山のようにありますが、事故はなくなりません。

同様に病院でもリスク低減に向けてマニュアル整備や医療安全教育を行っていますが、事故をゼロにすることは不可能です。皆さんにお聞きします、間違いをしたことがない人はいますか?…どれだけ努力しても人は間違えるのです。

2000年を前後して、全国の病院にて痛ましい事故が続きました。1990年代までは個人の努力に依拠されていましたが、2000年以降は個人の努力に加え、システム的な対策が重要視されるようになりました。これからもリスク低減にむけた取り組みは続きますが、皆さまにもお願いがあります。すべての医療は患者が本人である事の確認から始まります。どうぞ、患者確認への協力をお願いします。



医療安全カンファレンスのようす



感染制御室

職員

室長 千秋 智重

課長 丸山 剛正

感染制御認定看護師 田中 早苗

紹介

感染制御室は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を契機に院内感染対策強化のためにこれまで医療安全管理室にあった感染対策部門が独立し設立され、院内感染対策を中心となって実施しています。感染制御室室長（インフェクションコントロールドクター：ICD）、専従の感染管理認定看護師 1名、事務員 1名を配置、また専任臨床検査技師、専任薬剤師で構成されています。主な取り組み内容は、院内感染対策のかかわる相談、感染症の院内発生動向調査、院内感染マニュアルの作成、更新、職員への研修を実施しています。



感染制御室内に組織されている、感染制御チーム（ICT）は、月1回会議を行い院内感染対策に関する内容の共有や検討を行います。定期的に院内巡回を行い、職員への教育や啓発活動を行い感染管理の重要性を周知しています。

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）は、各職種の専門性を活かし、患者さんの抗菌薬治療効果を最大化し副作用や耐性菌の出現を最小限に抑えることを目標として定期的なカンファレンスを実施しています。

感染対策は、2020年以降、近隣の医療機関や保険所等との連携が重要視されており、当院も感染制御チームで年に複数回のカンファレンスを開催し、情報の共有をはかっています。



感染制御チーム（ICT）ラウンド



抗菌薬適正使用支援チーム（AST）カンファレンス

抱負

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的なパンデミックは、日々の生活やすべてにおいてが感染症の脅威さらされ不安や苦痛を感じた出来事でした。この経験により作り上げた体制を基に、感染症から患者さんを守り、患者さんご自身が病気と真剣に向き合えるために、院内感染対策を通じて安心して療養できる環境を整えることに貢献していきます。



防災・災害対策課

職員数

防災・災害対策課長 鈴木 泰了
職員 1名

業務紹介

当院では、2012年から2017年にかけて病院再構築事業として大規模な建て替え工事を実施し、地震にも強い「災害拠点病院」として新たに生まれ変わりました。そして、院内の防災管理体制を強化するため、2017年に「防災・災害対策課」が設立されました。現在は2名の職員が所属し、副院長が災害対策救護センター長として指揮を執っています。

当課の主な業務は、院内の防火・防災管理（各種訓練を含む）です。具体的には、防災設備や避難器具の適正な管理、有事の際の避難経路確保に向けた対策を行い、災害時に迅速かつ的確な対応ができる体制の整備に努めています。その一環として、職場ごとの避難器具訓練や、大規模地震や風水害を想定した災害対応訓練なども定期的に実施しています。

また当院は、DMAT（災害派遣医療チーム）およびDPAT（災害派遣精神医療チーム）の体制を整えており、令和6年の能登半島地震の際には、計4隊のDMATを派遣しました。派遣先では、被災病院の救急外来支援、患者の広域搬送、診療所や避難所の調査、病院支援および保健福祉関連の調整業務など、幅広い活動を展開しました。

設備面においては、外来診療棟の屋上にヘリポートを整備しており、年間平均で約15件のドクターへリが着陸しています。ヘリポートからは、専用の直通エレベーターにより救急処置室へ迅速に搬送できる動線が確保されており、非常に高い利便性を誇ります。また、当院では救急車両を1台保有しており、能登半島地震の際には大きな役割を果たしました。平時には、入院患者の他院への転院搬送にも使用しており、年間平均で約45件の搬送実績があります。

康

当課では、課内での円滑な情報共有を重視し、和やかな雰囲気の中で業務を進めています。また、長野県内の災害拠点病院の防災担当者とも常時連絡を取り合える関係性を構築しています。加えて消防機関との連携も重要で、救急搬送に関する情報交換や、医師も参加する救急事後検証会議の事務局運営、さらには救急救命士の現場対応力向上を目的とした「メディカルコントロール協議会」の事務局も担っています。



今後は、職員一人ひとりが「防災意識」と「防災力」を高めることで、病院全体の災害対応能力の底上げを図っていきたいと考えています。また、平時からの防災・減災活動や、事業継続計画（BCP）の見直し・検証を積極的に進め、常に災害対応力を向上させ続ける病院でありたいと願っています。



広報課

職員

課長 内田 守道



紹介

1945年の創立以来、北信総合病院は北信地域の皆さんとともに歩んできました。その歩みの中で、病院の理念や医療活動を社会に伝える「架け橋」としての役割を担うべく広報課が2024年4月に設立されました。

広報誌の発行、ホームページやSNSの運営、デザイン制作。メディア対応、広告協賛など、多岐にわたる業務を通じて、病院の姿をわかりやすく、そして温かく伝えることを心がけています。特に近年では、デジタル広報の強化や双方向のコミュニケーションを重視し、地域とのつながりをより深める取り組みを進めております。

80周年という節目を迎えた今、「伝える広報」から「つながる広報」へと進化し、これからも地域の皆さんと同じ目線で、当課は信頼される病院づくりに少しでも貢献できればと考えています。

業務内容

広報課は、病院の広報を担う部門として、以下の業務を行っています。

- ・院内外向け広報物の企画・制作（広報誌、ポスター、リーフレット等）
- ・ホームページ・SNSの管理運営
- ・デザイン制作
- ・メディア対応（取材調整、プレスリリース作成）
- ・イベント・講演会等の情報発信
- ・広告協賛、施策立案

実績

デザイン・広告物制作



北信総合病院だより



北信クリニック開院
新聞折込チラシ制作



動画制作



番組制作、公開



架装会社と救急車外装・
内装デザイン制作



テレビ局にて収録



Tシャツデザイン制作



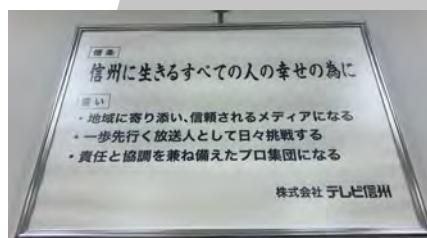
広報の質を高める取り組み

～単なる情報発信からコミュニケーションの強化、連携へ

医療機関は信頼性や専門性が求められる組織であり、外部の視点や専門知識が広報活動の質を高める重要な要素となるため、東京科学大学 広報アドバイザーと連携し広報を行っています。

連携

地域の皆さんへ情報を発信、収集するためには報道機関との関係は非常に重要です。当院からの情報発信だけでなく、取材依頼もあります。目的、内容等を聴取し調整することも広報の業務です。それは日頃から顔の見える関係づくりがあります。



感銘を受けたテレビ信州さんの社訓

100周年へ向けて

1. 「支える医療」+「生活者視点」での情報発信

病院の役割の再定義がすすめられると思います。そのため広報は病院の機能や地域での立ち位置を地域の皆さんへ明確に伝える役割があります。

2. 現在の広報の課題

デジタル化により多くの皆さんに気軽に見ていただけるようにすすめています。しかしコンテンツ制作の偏りやスケジュール調整に縛られ、広い視点で物を見るという視点が失われやすい状況です。理想は:「元気な人にも医療の必要性を考えさせる」広報をすすめられること。もともと医療広報は「信頼の醸成」と「ブランドづくり」を目的としてすすめています。それには患者さんプラス、地域住民、行政機関・周辺医療機関、地元企業など多様なステークホルダーとの信頼構築が重要と考えております。

3. テクノロジーと双方向性の融合

AI、センサー技術、SNSなどの進化により、個人の好みやニーズに合わせて広報は調整・最適化され、双方向的なものへすすんでいくと思われます。そのため患者さんの生活圏に広報を展開し、地域との接点を増やすことをすすめています。

現在、この記念誌を制作しながら 2045 年に記念誌を開いたときを想像しています。

たんぽぽ

保育園



職員

園長 永峯 けさみ



紹介

子どもたちのかわいい笑顔に毎日パワーをもらい職員一同元気いっぱい業務に励んでいます。職員の年齢の幅は10代・20代・30代・40代・50代・60代と、とても広い職場です。

これだけの幅があると、職場内の雰囲気はどうなの?と気になるところですが、私から見て、一人ひとり、もちろん個性もありますがただ、皆に共通するのは、優しさ・思いやりの気持ちがある。そして、子どもたちのことをとても、大切に思い保育しているということです。協調性もありますし、皆で一緒にたんぽぽ保育園の子どもたち・保護者に寄り添い日々の業務にあたっています。優しさ・思いやりの気持ちがあるということは保育士にとって最も重要なポイントですが、それと同時に人として欠けてはいけないとしても、大切なことだと思っていますのでそんな職員がそろっている職場を私は誇りに思っています。

未満児保育ということで、子どもたちの成長も日々めまぐるしい中で、一人ひとりにあつた対応をするため保育士間での意見交換や情報共有をしながら、時に保護者の方とも相談し、毎日の保育にあたっています。昨今では少子化問題が社会全体の問題としてクローズアップされたり、虐待などの悲しいニュースなどもありますが、日々子どもたちを保育するなかで感じるのは、まだまだ小さな子どもたちですが、そんな子どもたちの目はいつもキラキラと輝き希望に満ちた笑顔でいっぱいだということです。そんな子どもたちの笑顔を絶やすことなく、明るい未来へ羽ばたいていけるよう、これからも、職員一同、気を引き締めて保育にあたりたいと思っています。

そして忘れてはいけないのは、たんぽぽ保育園の存続にあたっては保護者の方からの支え・病院の方からの支え・組合の方などからの沢山の方の支えで成り立っているということです。



先輩の先生方から思い出のエピソードを聞きました。現在の保育園ができる前は築50年以上の古い医師住宅を改装し園舎として使用していました。冷暖房もきかず、夏はなんと、屋根の上にスプリンクラーを付け水をまき涼んでいたそうです。そして、狭い保育室には沢山の子どもたちがあふれかえっていたり、生後2ヶ月のお子さんにはお母さんが仕事の合間をぬって授乳に来ていたそうです。そんな中でも可愛い子どもたちの笑顔は、今でも心の中に残っているそうです。そして、今は広い保育室・芝生の庭と素晴らしい環境の中で保育できる事に幸せを感じていますということです。

こんな素晴らしい歴史と共に今があることに職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。支えてくれる方たちへの感謝の気持ちを忘れることなく大切に、これからも成長していく、職場を目指して職員一同頑張っていきたいと思います。

そしてこの先、10年20年先も輝き続けるたんぽぽ保育園でありますように・・・これからもたんぽぽ保育園をよろしくお願ひします。

